

# (仮称) 上三川町生涯学習・子育て支援複合施設



## 基本設計概要



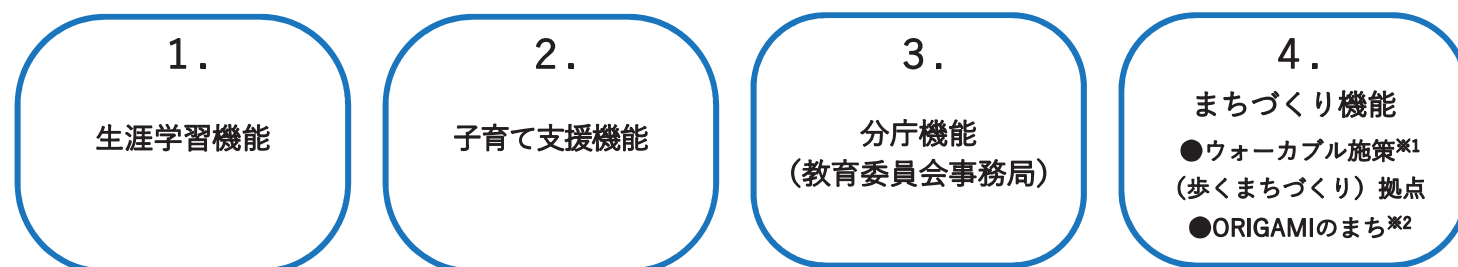
令和4年3月

# 1. 計画概要

## 上三川いきいきプラザの隣に新しい複合施設が誕生します



### 『4つの機能』を複合化します



「(仮称) 上三川町生涯学習・子育て支援複合施設 (以下、本施設)」は、「生涯学習機能」、「子育て支援機能」、「分庁機能 (教育委員会事務局)」、「まちづくり機能」の4つの機能を複合化した施設です。  
 上三川町は、令和3(2021)年6月に策定した「生涯学習・子育て支援複合施設建設基本計画」において本施設に求める基本的な考え方をまとめた後に、設計者による設計提案をふまえ、有識者等で構成された検討委員会、公募による町民ワークショップを実施し、このたび「(仮称) 上三川町生涯学習・子育て支援複合施設基本設計概要 (案)」(以下、設計概要)を作成しました。この設計概要は、本施設の基本的な整備内容についてとりまとめたものであり、今後の設計を進めるにあたり、本施設の概要を広く町民の皆様にお知らせするものです。

#### ※1 ウォークアブル施策 (歩くまちづくり) とは

上三川町は、国の掲げる「居心地が良く歩きたくなるまちなか形成」の考えに賛同し、ウォークアブル推進都市として歩くまちづくりを推進しています。上三川町では、本施設をまちなかウォークアブル区域における拠点施設のひとつと捉えており、上三川いきいきプラザと連携し、まち歩きの起点となる施設整備を目指します。

#### ※2 ORIGAMIのまちとは

上三川町は、世界に"ORIGAMI"を広めた創作折り紙の第一人者・故 吉澤章氏の出身地であることから誰もが楽しめるORIGAMIを通し、SDGsの基本理念でもある『誰一人取り残さない』まちづくりを目指しています。本施設では、そんなORIGAMIをモチーフとしたデザインを積極的に検討し、ORIGAMIを感じる施設整備を目指します。

### ■ 計画概要

事業個所	上三川町大字上蒲生127番地
敷地面積	約6,700㎡
用途	生涯学習、子育て支援、分庁機能で構成された複合用途
延床面積	2,318㎡
	生涯学習部門 796㎡
	子育て支援部門 537㎡
	分庁機能部門 (教育委員会事務局) 380㎡
	共用部 605㎡
建築面積	2,692㎡
用途地域	指定無し (市街化調整区域)
階数	平屋建て
構造	鉄骨造または鉄筋コンクリート造
駐車場	94台 車いす駐車2台含む
建設工期	令和5年度初旬～令和5年度末 (予定)
概算工事費	約15億円



縮尺 1/10,000

## 2. 設計コンセプト

### 1 施設の全体像

#### ～学ぶ・育てる・助けあう 町民に寄り添う施設～

- ・誰もが利用しやすい「ユニバーサルデザイン※1」を積極的に採用し、町民に寄り添う施設を目指します。
- ・多くの人にとって利用しやすい「平屋建て」とし、床に段差のない「フルフラット※2」の施設とします。
- ・既存施設（いきいきプラザ等）と連携し、「誰もが気軽に立ち寄れる施設」として賑わいを創出します。

※1 年齢、障がいの有無に関係なく、誰もが利用しやすいデザイン。

※2 機能上必要となる段差（点字ブロック・防音扉枠等）を除く。

### 2 生涯学習部門：学習・創造・発信の場

#### ～いつでも、だれでも、楽しく学べる楽学センター～

- ・生涯学習・芸術・文化の拠点として、「既存事業（現中央公民館実施事業）の継続」を前提とします。
- ・既存事業に加え、より多様な学習形態や発表機会、体験機会の拡大を図るため「多様なニーズ」に対応します。
- ・「学ぶ発見」の機会創出を図るため、「活動を見せる/見せない」をコントロールできる空間とします。

### 3 子育て支援部門：交流・子育て支援の場

#### ～こども楽しい、おとなうれしい、親子の拠点～

- ・子育て支援の拠点として、「既存事業（現子育て支援センター実施事業）の継続」を前提とします。
- ・既存事業に加え、「町民ニーズに応える施設」を目指します。

（町民アンケート結果）

「子育て支援について充実を図ってほしいこと」

→第1位：子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい

「本施設にあるとうれしい機能やスペース」

→第1位：遊具スペース（屋内・屋外）

第2位：持ち込み飲食スペース

### 4 分庁機能部門（教育委員会事務局）

#### ～訪れやすく、執務しやすい、分庁機能の拠点～

- ・執務室にふさわしい環境づくりを行います。
- ・駐車場や出入口近くに配置し庁舎との連携に配慮します。

### 5 共用部門

- ・施設の出入口は、駐車場や既存施設（いきいきプラザ等）から「見つけやすく、近い位置」とします。
- ・交流・情報発信の場として、ふらっと立ち寄りやすい「開放的で居心地のよい空間」とします。
- ・誰でも気軽に立ち寄れる交流スペースとして「ふれあいラウンジ（持ち込み飲食・公衆無線LAN）」を検討します。
- ・中高生の自主学習やパソコンでの軽作業等、多世代で利用できる居場所として「フリースペース」を設けます。
- ・多目的ホールのギャラリー兼待合空間として、「にぎわいアトリウム」を設けます。
- ・障がいの有無、親子利用、LGBTに配慮した「誰もが利用しやすいトイレ」を設けます。
- ・施設利用案内、イベント情報等を掲示する「掲示スペース」を設けます。

### 6 まちづくり機能

#### 6-1 ウォークアブル施策：（歩くまちづくり）実践

##### ～歩く、広がる、まちづくりの起点～

- ・外部・半外部・内部の歩行路が連続する「段階的な歩行空間づくり」を意識的に行うため、内部通路を「外部歩行路のようなデザイン」とします。
- ・歩行空間は、吉澤章記念室を起点に、サインをメインとした「ORIGAMIを感じる歩行空間」を目指します。
- ・デジタルサイネージ※や情報発信ブースを共用部に設け、「まち歩き情報」を発信します。

※ デジタルサイネージとは、表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイなどによって映像や文字を表示する情報・広告媒体。

【デジタルサイネージのイメージ】



※現時点のイメージであり、今後の詳細検討で変更する可能性があります。

### 6-2 ORIGAMIモチーフの展開

#### ～SDGsを推進するORIGAMIのまちを象徴する空間づくりを目指す～

##### ① ORIGAMI×吉澤章記念室

吉澤章氏の作品展示にくわえ、ORIGAMI体験コーナーを検討します。作品展示からまち歩きにつながるような動線計画とします。

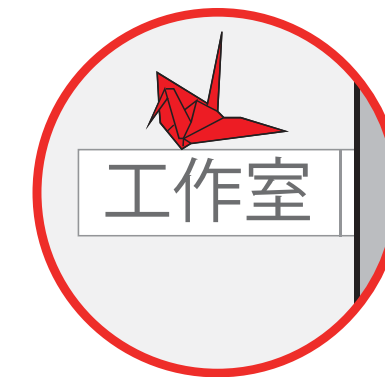
##### ② ORIGAMI×内装計画

ふれあいラウンジや遊戯室は、ORIGAMIをモチーフとした内装計画とします。

##### ③ ORIGAMI×サイン計画（ユニバーサルデザイン）

室名・誘導サインにORIGAMIの「図柄」を用いることで、だれにでも直観的に分かりやすいサイン計画とします。

【ORIGAMIサインのイメージ】



※現時点のイメージであり、今後の詳細検討で変更する可能性があります。

### 7 構造計画

#### ～強い構造体～

安全性の目標を構造体Ⅱ類（建築基準法の1.25倍）  
非構造部材B類  
建築設備乙類

構造：音や振動に配慮し、耐震性の高い堅牢な構造とします。

屋根：漏水の無いシンプルな形式とします。

支持地盤：地盤調査結果を踏まえて基礎形式を選定します。

#### ～非構造部の安全対策～

非構造部材：設備機器は耐震性・脱落防止を徹底します。

多目的ホール等：建築基準法に適合した地震時にも安全な仕様とします。  
の特定天井

## 2. 設計コンセプト

### 8 設備計画（電気設備・機械設備）

#### ～安全性・耐久性・快適性の確保～

- ・ 不特定多数の利用者が想定されることより、安全性・耐久性の高い機器を採用し管理者・利用者が安心して活用できる設備計画とします。また、各居室の目的に合った適切な能力の機器を配置し、利用者の快適性を確保します。

#### ～保守管理の容易性～

- ・ 日常の維持管理のしやすさ、機器更新を見据えた配置計画とし、機器の長寿命化を図ります。また、操作性が良く（誰もが判り易く）汎用性があり、シンプルなシステムを採用します。

#### ～環境負荷の低減～

- ・ 高効率省エネ機器を採用し、エネルギー消費量の低減を図ります。（グリーン購入法適合品の採用）また、リサイクルが容易な資材を採用し、エコマテリアルに努めます。

### 9 環境計画

#### 9-1 本施設は「ZEB」に向けた検討を進めます。

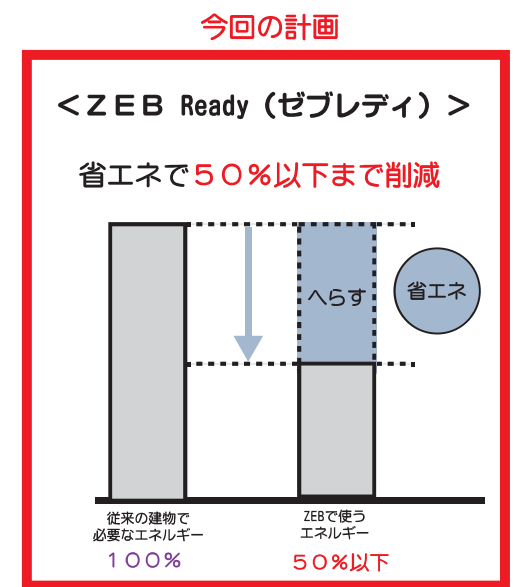
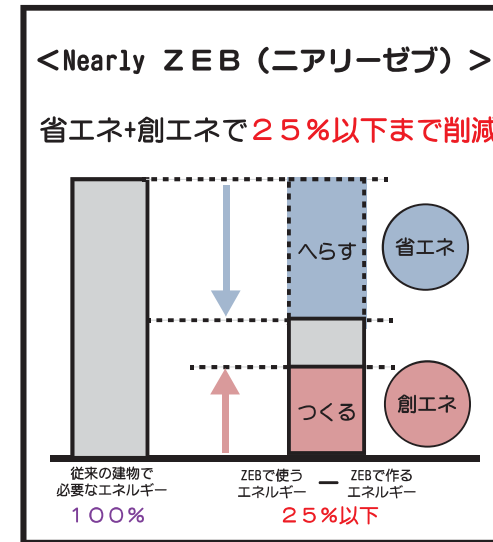
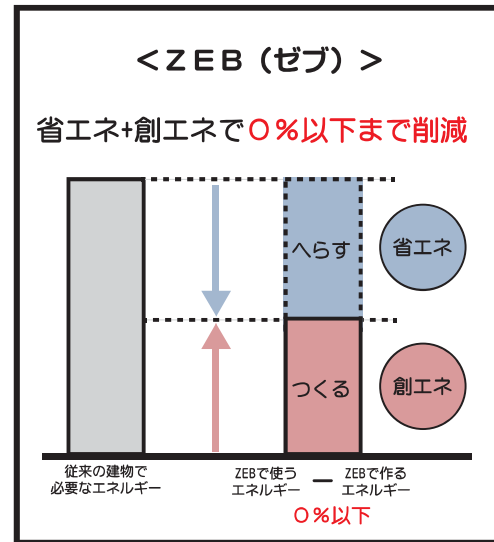
##### ～ZEBとは～

- ・ Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で、「ゼブ」と呼びます。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のことです。

##### ～ZEB化の必要性～

- ・ 我が国のエネルギー政策である「エネルギー基本計画」において、地球温暖化やエネルギー需要の安定化のため、建物でのエネルギー消費量を大きく減らすことのできるZEBの普及が求められています。

#### ～ZEBの定義～



#### 9-2 本施設は「ZEB Ready」を目指します。

- ① 本施設は、環境配慮と経済的な持続性（費用対効果）のバランスを重視しZEB Readyを目指します。

#### ～本施設における「ZEB Ready」の取り組み例（最終的な採用は今後の詳細設計による）～

省エネ技術	項目	取り組み内容例
必要なエネルギーを減らす (パッシブ技術)	昼光利用	ライトシェルフにより自然採光による電力の使用量の削減。
	通風・換気	自然通風・換気・ナイトパーズ機能の確保。
	日射・熱の抑制	縦ルーバーによる日射の抑制、屋根・外壁の高断熱化、Low-E ガラス（トリプル）の採用。
エネルギーを無駄なく効率的に使う (アクティブ技術)	高効率器具	LED 照明・トップランナー機器を採用し、設備機器のエネルギー消費を削減。
	節水器具の採用	節水型便器・自動水栓を採用し、水の使用量を削減。
	人感センサー	照明の消し忘れを防ぎ、電力の使用量を削減。
	置換空調	居住域を効率良く空調し、エネルギー消費を削減。

- ② 災害時利用を想定し、太陽光パネルの採用を検討します。検討にあたっては、現在技術革新が著しい「EV車」を「太陽光発電と連携した蓄電池」として利用できる設備の設置についても視野に入れます。

- ③ 「ZEB Ready」に係る投資方針
  - ・ 「ZEB Ready」採用により、不採用建物の一般的な建設費より約5～10%程度の上昇が見込まれますが、光熱費の削減や設備機器高効率化（＝長寿命化）によって生まれるランニングコスト削減で、実質負担の軽減を目指します。現在、国の「エネルギー基本計画」でZEBの普及が求められている状況において「ZEB Ready」の採用は、公共建築物という性質上 実現すべき環境基準と考えています。
  - ・ 「ZEB Ready」を実践し、将来的には「Nearly ZEB」導入を検討します。

### 3. 配置計画・部門ゾーニング計画

#### ■ 配置計画

##### 建物

- ① 西側・西向きに配置
  - ・いきいきプラザから続く「にぎわい軸」に沿って配置することで、にぎわいの連続性・相乗効果を引き出します。

##### 駐車場

- ① 東側に配置
  - ・施設との間に駐車場空間を挟むことで、東側住宅地の良好な住環境を確保します。
- ② メイン出入口は「クランク形状」とし、車両速度を下げ、歩行者の安全性に配慮します。
- ③ 「一方向の車両動線」により、建物に近い側からストレスなく空き駐車場を見つけられる計画とします。
- ④ 「歩行帯」を設け、子連れ利用の安全性に配慮します。
- ⑤ 車いす駐車場（思いやり駐車区画）は、「大庇（ウェルカムルーフ）」を設け、雨天時の利便性に配慮します。
- ⑥ 災害時等に利用できる、「臨時出入口」を設けます。（通常時は閉鎖）
- ⑦ 雨天時の利便性に配慮し、「大庇の下に一時停車スペース」を設けます。

#### ■ 部門ゾーニング計画

##### 1. 生涯学習部門

- ① 生涯学習部門は、子育て支援部門（動的な空間）と一定の距離間が保てるよう、共用部を介して「南側および西側に配置」します。
- ② 建物の高さが高くなる「多目的ホール」を南側に配置し、いきいきプラザの「大庇」への日照に配慮します。
- ③ 多目的ホールは、イベント時の駐車場利用を想定し、「既存南側駐車場からも近い位置」とします。
- ④ 活動諸室（工作室・学習室等）を、「にぎわい軸側に配置」し、活動内容を外部に「見せる/見せないをコントロール」できるゾーニングとします。

##### 2. 子育て支援部門

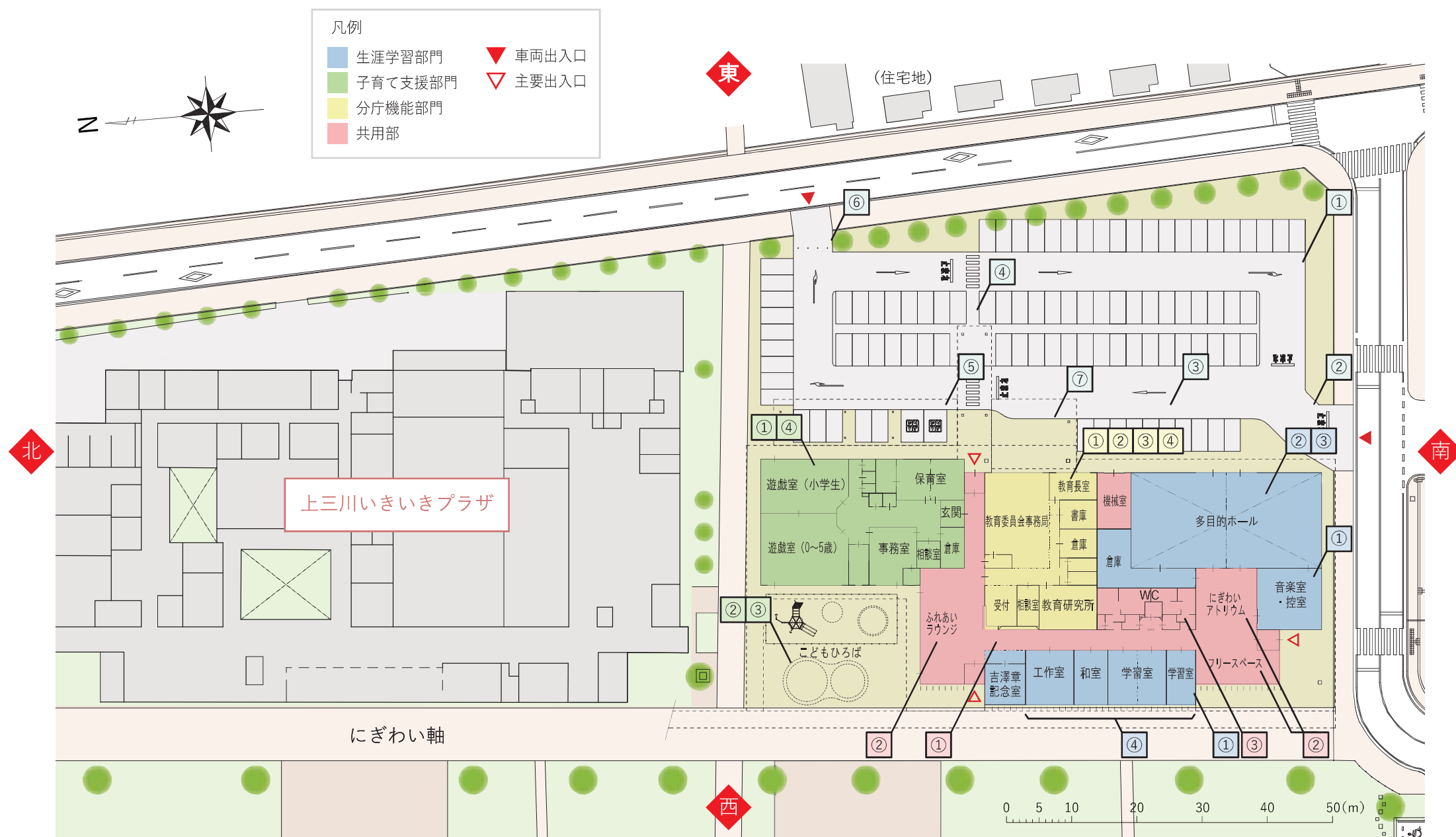
- ① 子育て支援部門は、「いきいきプラザ側に配置」し、いきいきプラザと連携してにぎわいを創出します。
- ② いつでも利用できるこどもひろばを「いきいきプラザ出入口の正面」に配置し、いきいきプラザ利用者の相互利用を促します。
- ③ こどもひろばは、車路に面さない「建物で囲まれた安全な位置」とします。
- ④ 子育て支援部門は、安全・衛生上の管理に配慮し、「ひと固まり」のゾーニングとします。

##### 3. 分庁機能部門（教育委員会事務局）

- ① 分庁機能部門（教育委員会事務局）は、生涯学習部門の受付機能をもつため、全体を管理しやすい「中央部」に配置します。
- ② 車いす利用者や障がい者の来館等、駐車場の状況を把握しやすい「駐車場側に配置」します。
- ③ 現庁舎からの歩行利用や車両運転等、いずれの利用者にも配慮し、「中央部で分かりやすく、駐車場からも近い位置」とします。
- ④ 分庁機能部分は、執務上の管理に配慮し、「ひと固まり」のゾーニングとします。

##### 4. 共用部

- ① 内部通路は、「縦・横を貫く直線通路のみ」とし、シンプルで分かりやすい構成とします。
- ② シンプルな内部通路に沿って、環境（にぎやか/静か）に応じた「性格の異なる3つの交流スペース」を配置します。
  - ・ふれあいラウンジ：持ち込み飲食可能なにぎわい空間
  - ・フリースペース：比較的静かな作業空間
  - ・にぎわいアトリウム：ギャラリー・待合い空間
- ③ トイレは、施設全体の利用者が使用するため、「分かりやすい位置にまとめて配置」します。



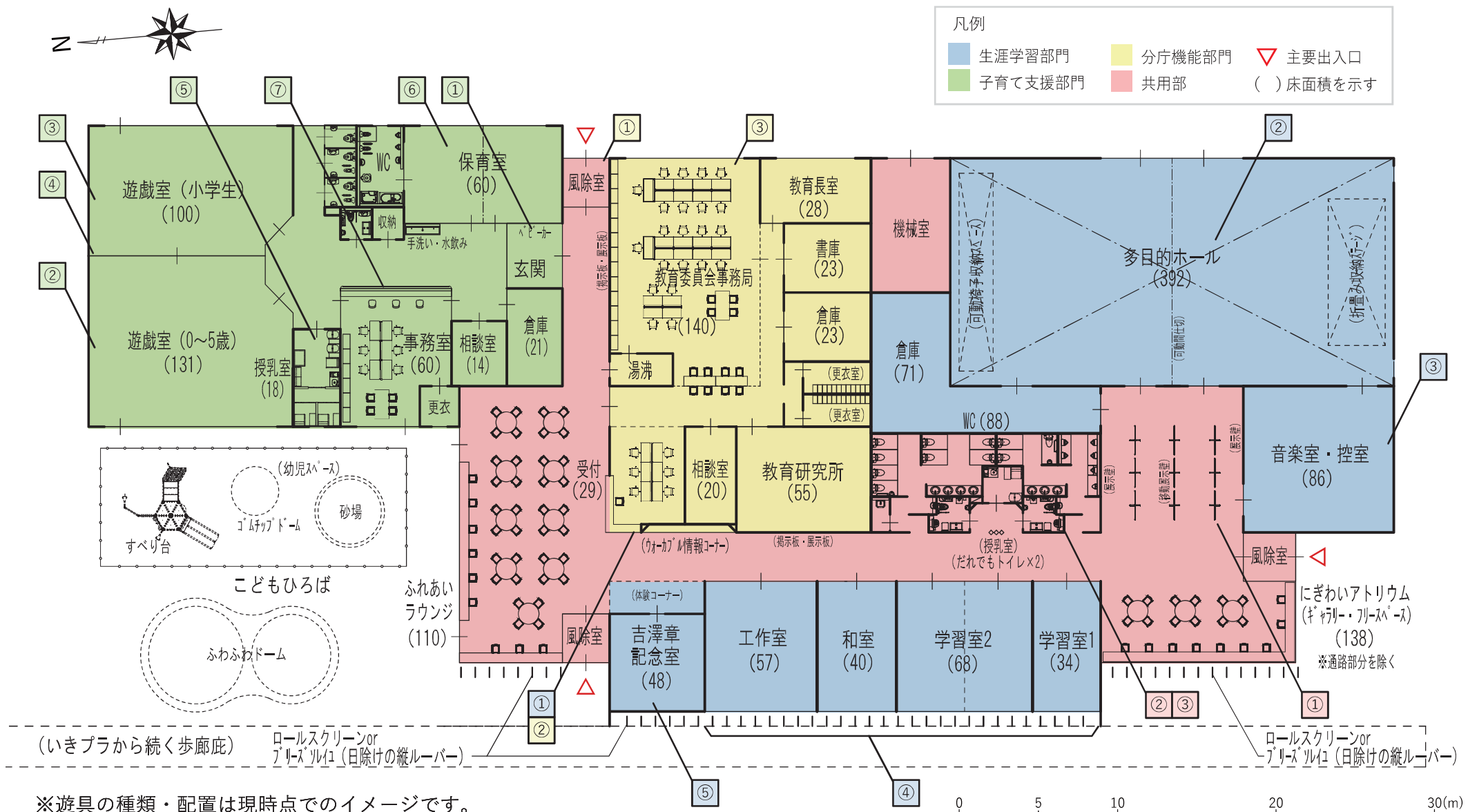
## 4. 平面計画

### ■ 平面計画

#### (生涯学習部門)

生涯学習部門において、活動諸室（工作室・和室・学習室・音楽室）・多目的ホールに関しては、受付利用が必要ですが、関連する共用部（にぎわいアトリウム・フリースペース等）や吉澤章記念室に関しては、受付利用が不要で気軽に利用できる形態とします。

- 生涯学習部門の受付窓口は、サイン表示により、すべての出入口から「見つけやすい位置」とします。
- 多目的ホールは、「楽器演奏に配慮した防音仕様」とするほか、「可動観覧席・可動ステージ」を設け、座席数を300席以上確保します。部分貸し等、より多目的な利用に対応できるように「可動間仕切り壁」を設けます。
- 音楽室は、「隣り合う多目的ホールの控室」として利用できるようにします。
- 活動諸室（工作室・和室・学習室）は、「眺めがよい西側に配置」とするとともに、ロールスクリーンやブリーズソレイユ（日除けの縦ルーバー）等を検討し、外部に「活動を見せる/見せないをコントロール」出来るようにします。工作室の工作台や電気炉の設置をはじめ、「既存事業が継続できる施設整備」を行います。
- 吉澤章記念室は、故・吉澤章氏の「折り紙作品の実物展示」のため暗室部分を設けるほか、「同氏の功績を正しく伝える展示スペース」を設けます。



#### (子育て支援部門)

子育て支援部門は、衛生・安全上の配慮からすべてを上足エリア（靴を脱いで利用するエリア）とし、事務室で受付を行ってから利用する形態とします。

遊戯室利用時は、「親が子どもを見守る」ことを原則としますが、常に保育士等がおり、子育て相談等を受けます。

- 玄関は、「駐車場から近い位置」とし、靴脱スペース兼ベビーカー置場としてゆとりを持たせます。
- 遊戯室（0～5歳）は、「年齢別の遊具」を設けるとともに、ほふく・幼児エリアと3～5歳児エリアを「低い間仕切りで区画」し、安全性を確保します。既存事業に対応できるように、平場スペースを確保します。
- 遊戯室（小学生）は、ボルダリングウォールやネット遊具等、「アクティブな遊具」を検討します。

- 遊戯室間の間仕切り壁は、視認性と安全性を確保したうえで、一体利用が可能な「大型引戸」等を検討します。
- 授乳室は、遊戯室（0～5歳）および通路から入れる位置とし、おむつ台・授乳ブース・流し台を設け、「男性利用にも配慮」します。
- 保育室は、「玄関の近く」に設け、お迎え時の利便性や駐車場から様子を伺えるオープンな空間とします。間仕切り壁により、2室に分割できるものとします。
- 事務室は、子育て部門「全体を見渡せる中央部」に配置します。

#### (分庁機能部門)

- 出入口は、車での来庁者にも配慮し「駐車場に近い位置」とします。
- 生涯学習部門の「受付窓口を確保」します。
- 執務室は、駐車場の状況を把握できるだけでなく、「採光・通風が可能な外部に面した位置」とします。

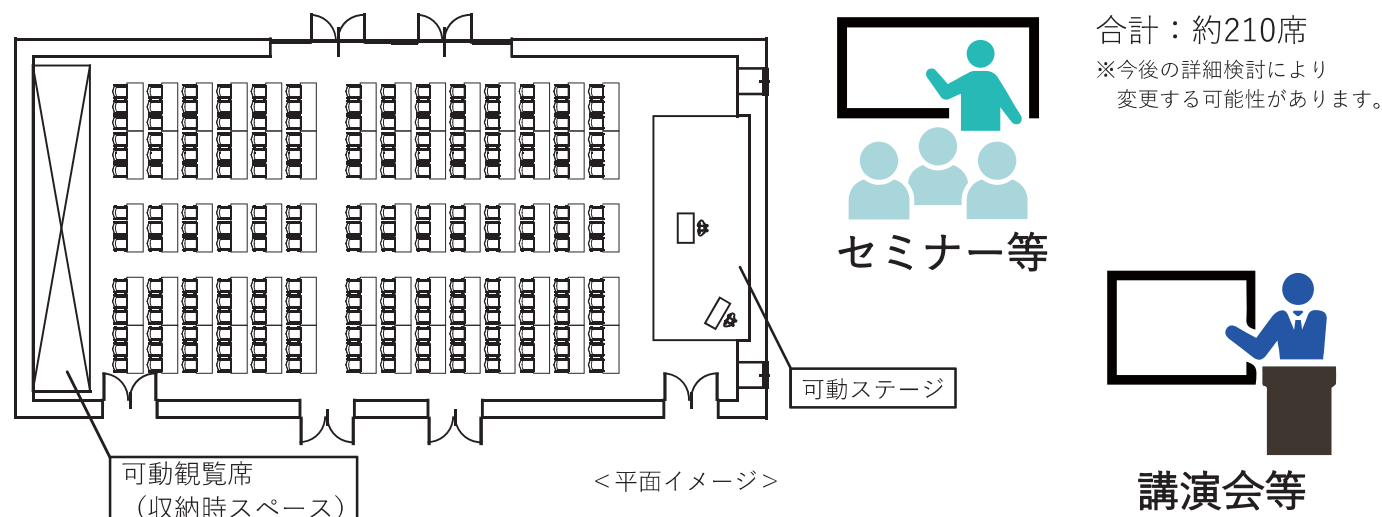
#### (共用部)

- 共用部の内部通路に、町民作品が展示可能な「壁面ギャラリー（アートウォール）」を設け、発表機会を創出します。
- トイレの衛生器（大便器・小便器、洗面等）の設置数は、多目的ホール使用時に配慮した計画とします。
- トイレまわりに「誰でもトイレ2室、授乳室」設け、子連れ利用やLGBT等誰にでも利用しやすいよう配慮します。

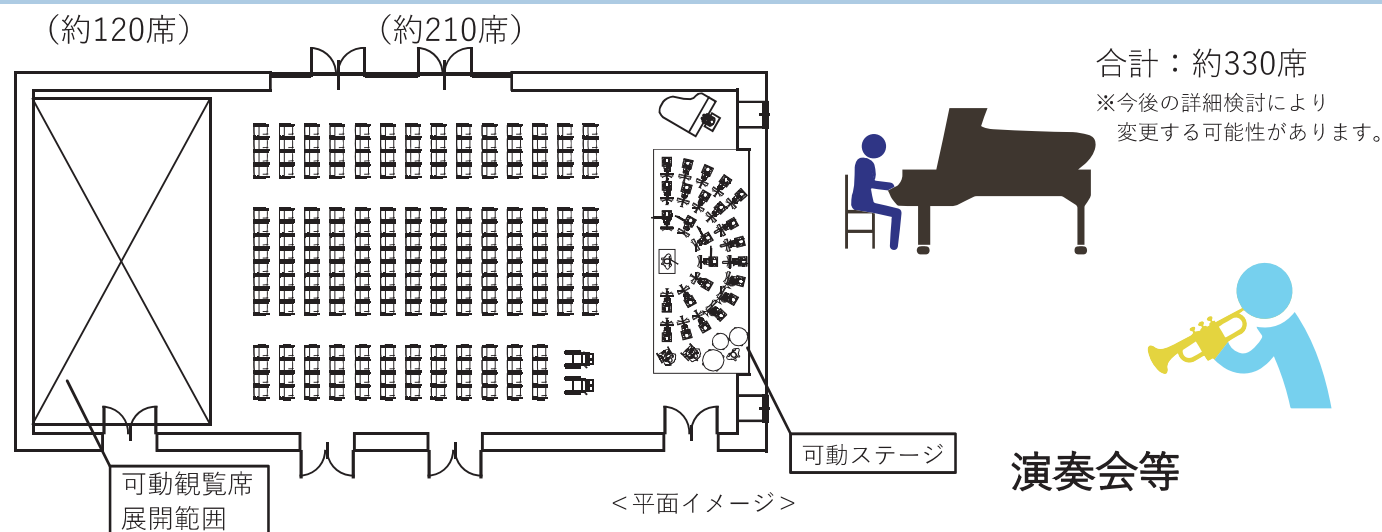
## 5. 多目的ホールの使用例、こどもひろば・遊戯室の空間コンセプト

### ■ 多目的ホールの使用例 多目的ホールは、可動観覧席や可動ステージを検討し、様々な使用に応じる計画とします。

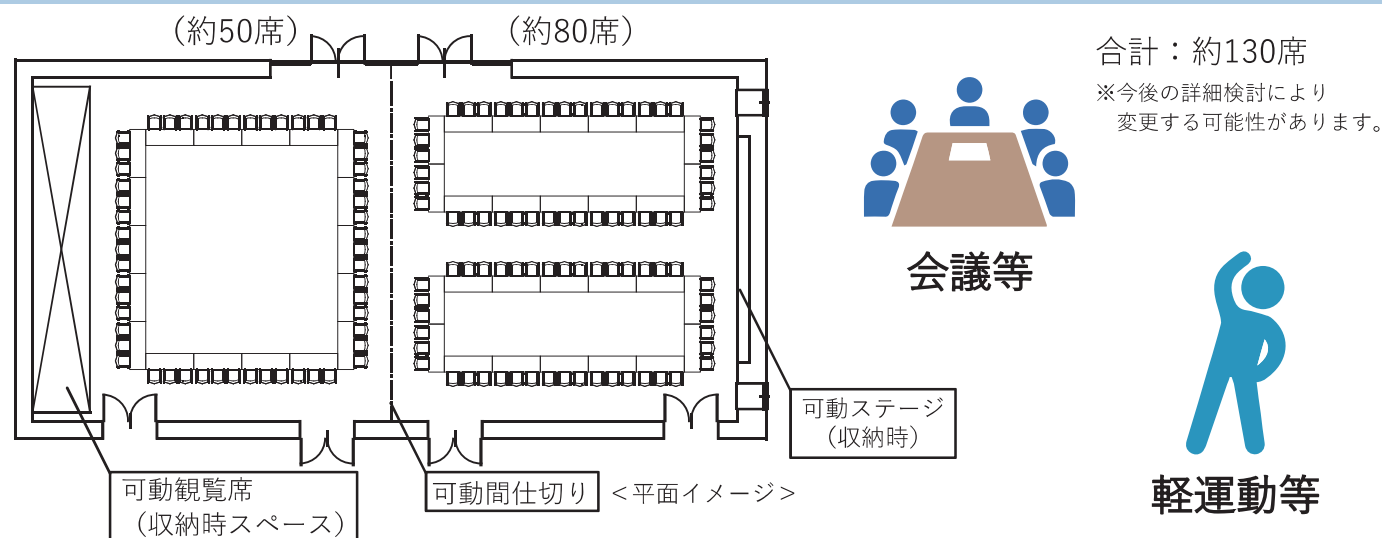
#### <平土間（机+椅子）>



#### <可動観覧席+平土間（椅子）>

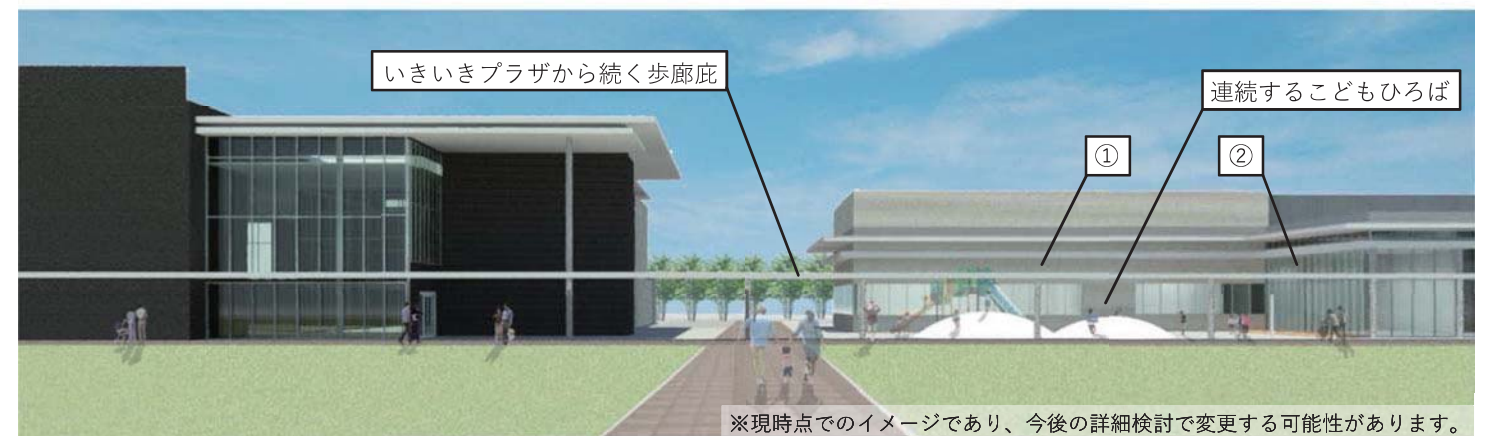


#### <平土間（2分割）>



### ■ こどもひろば、遊戯室の空間コンセプト

#### こどもひろばイメージ



① こどもひろばは、大型遊具や、年齢別の遊具を検討し、町民ニーズに応じ「子連れでも出かけやすく楽しめる場」を目指します。

② こどもひろばの見守り兼持ち込み飲食スペースとして、共用部に「ふれあいラウンジ」を設けます。ふれあいラウンジは、おでかけ情報やPC軽作業等を支援するため、「公衆無線LAN」を検討します。

#### 遊戯室（0～5歳）イメージ

● 子どもの想像力をかきたてる「ORIGAMI」をモチーフとした内装デザインを検討します。



A案：壁面に栃木県産木材を使用し、木の温もりを表現。折り紙をイメージした色の枠を壁面に設置し窓枠やお絵描きをする枠とするイメージ。

B案：構造柱の柱型を利用し、壁面に凸凹を活かし、その壁を格子状にデザインすることで折り紙を意識したイメージ。

C案：大きい壁面を有効活用し、吉澤章氏の作品「チョウ」の折り方を表現し、カラフルなチョウが羽ばたいていく様子をイメージ。

※具体的なデザインは、今後の詳細設計で検討していきます。

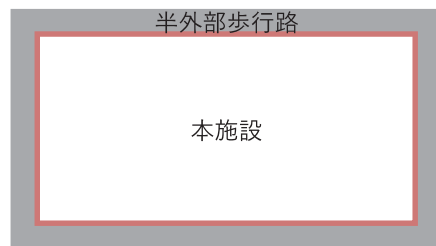
## 6. ウォーカブル施策（歩くまちづくり）の実践

### ■ ウォーカブル施策（歩くまちづくり）の実践 ～歩く、広がる、まちづくりの起点～

1. ウォーカブルコンセプト：歩く、広がる、まちづくりの起点・・・段階的（内・半外・外）な歩行空間を整備し「まち歩き」の延長にあるような施設を目指します。

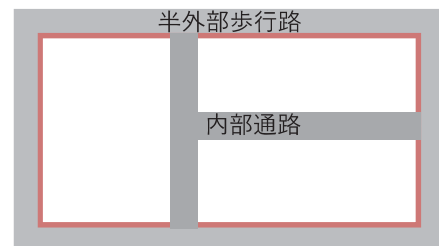
●段階的な歩行空間整備イメージ

#### 1 半外部の回遊歩行路



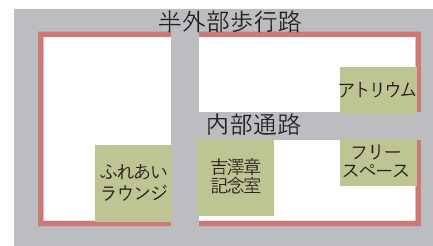
- ①建物外周部に回遊できる歩行路を整備
- ・軽雨天時・夏場でも歩きやすい環境
  - ・まち歩きのきっかけづくり

#### 2 室内化された歩行路



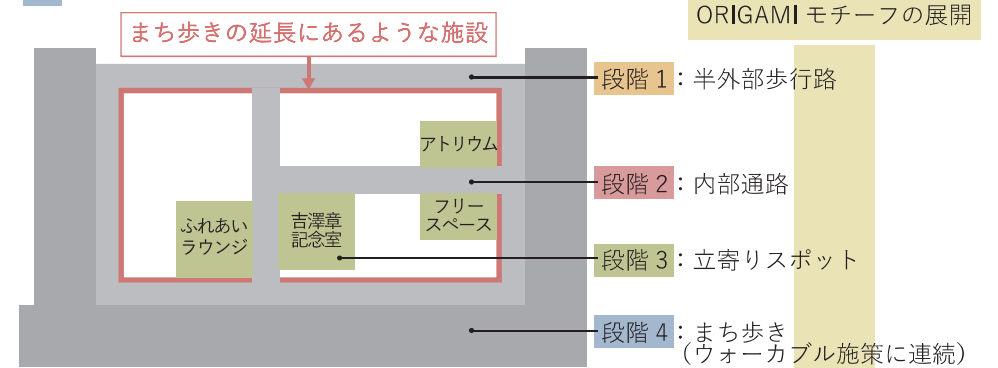
- ②半外部歩行路と連続・一体化した内部通路
- ・外部歩行路のような雰囲気の内通路
  - ・まち歩きの延長にある内部通路

#### 3 気軽に立寄れる空間



- ③気軽に立寄れる「スポット」を点在
- ・内部通路に、立寄りスポットを点在
  - ・情報発信・まち歩きのきっかけづくり
  - ・ORIGAMIモチーフのウォーカブル展開

#### 4 ウォーカブル施策に連続



- ④段階的な歩行空間の整備によるウォーカブル実践
- ・段階1 半外部の回遊歩行路（半外部歩行路）
  - ・段階2 室内化された歩行路（内部通路）
  - ・段階3 気軽に立寄れる空間（立寄りスポット）
  - ・段階4 ウォーカブル施策に連続（まち歩き）

2. 段階的な歩行路整備によるいきいきプラザとの連携・・・中心拠点施設整備エリア全体で「歩くきっかけ」をつくる

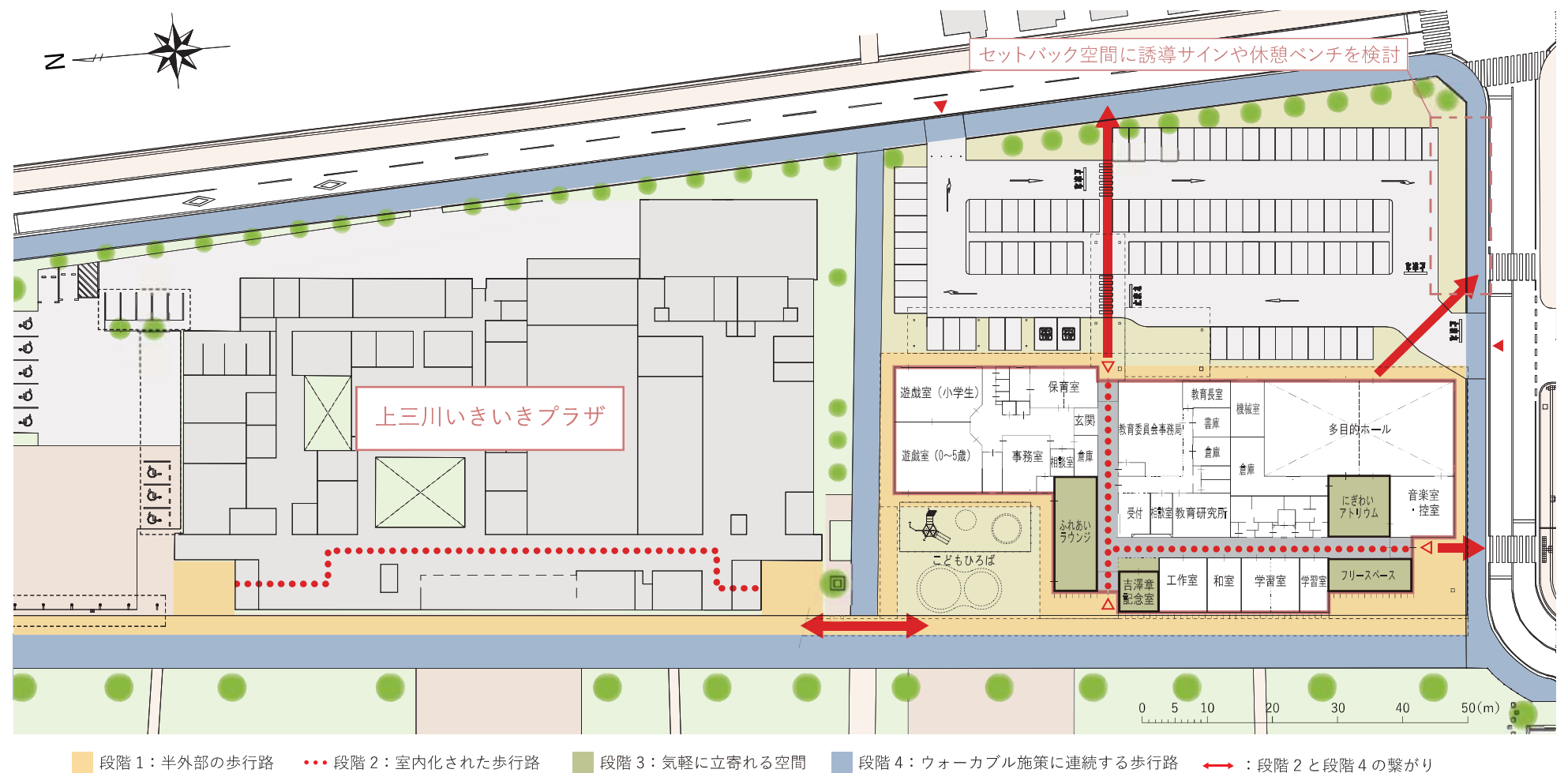
- ・「段階的な歩行路整備」の視点のもと、いきいきプラザが潜在的に持つ「歩くポテンシャル」と連携します。
- ・いきいきプラザと連携し、中心拠点施設整備エリア全体で「歩くきっかけ」をつくり、ウォーカブル施策（実際のまち歩き）につなげます。



「歩くポテンシャル」を持ついきいきプラザの歩行空間

#### 3. ウォーカブル施策への展開

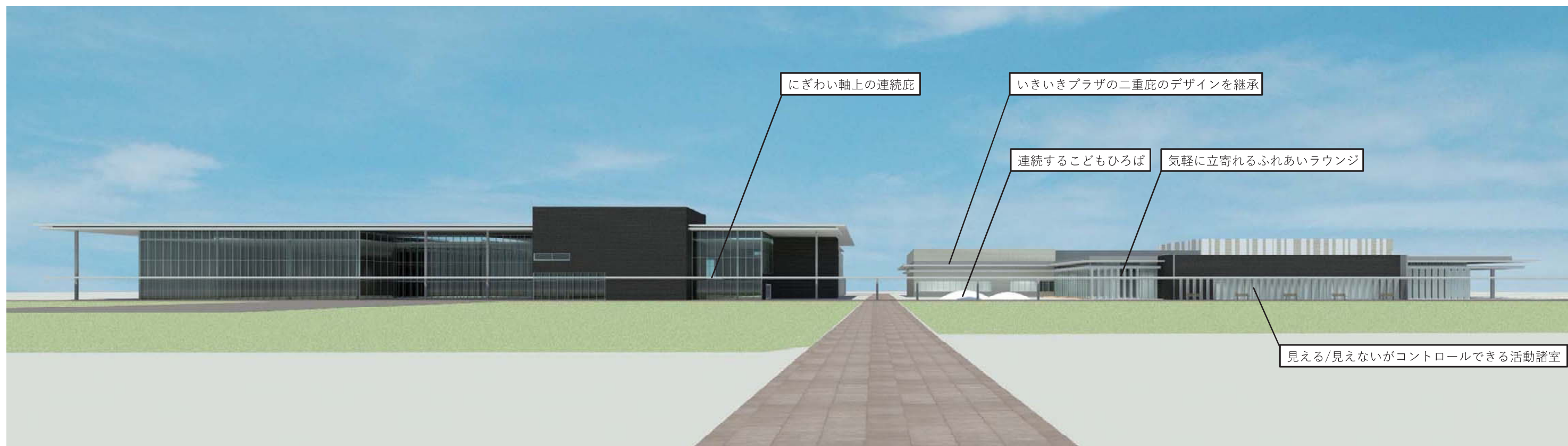
- ・中心拠点施設整備エリアの「歩くきっかけ」や「まち歩きへの意識」をウォーカブル施策のまちなかウォーカブル区域に引込みます。
- ※ まちなかウォーカブル区域の範囲及び施策内容は、現在策定中。
- 本施設では、セットバック空間に、誘導サインや休憩ベンチを検討し、中心市街地方向（南東方向）へ歩行者を誘導します。





## 7. 外観イメージ

※掲載されたイメージパースは、現時点でのイメージであり、今後の詳細検討で変更する可能性があります。



●外観イメージパース（西側から見る）



●外観イメージパース（南東側から見る）

## 8. 内観イメージ

※掲載されたイメージパースは、現時点でのイメージであり、今後の詳細検討で変更する可能性があります。



●ふれあいラウンジイメージパース（ふれあいラウンジ北東側から風除室を見る）



●ふれあいラウンジイメージパース（ふれあいラウンジ北西側から受付を見る）



●ふれあいラウンジイメージパース（ふれあいラウンジから廊下を見る）



●ふれあいラウンジイメージパース（廊下からふれあいラウンジを見る）